

長沼町における地域公共交通活性化・再生総合事業(計画事業最終年度)

長沼町地域公共交通総合連携計画の目標

- (1) 高齢化社会に対応した“地域の足”となる交通体系の確立
- (2) 他市町村へのアクセス性が高い交通体系の確立
- (3) 環境負荷軽減に寄与する交通体系の確立

長沼町地域公共交通活性化協議会の開催状況

第10回協議会(3月26日開催)

- (1) デマンドバス実証運行に係る実施状況について
- (2) デマンドバス本格運行に係る路線協議について
- (3) 役員改選について

23年度総合事業計画の概要

(1) 長沼町デマンドバスの実証運行

運行ルート：長沼・栗山線
 運行期間：H23.4～H24.3
 運行回数：平日・土曜日5便、日曜日・祝日3便
 運賃：大人200円、65歳以上・小人100円
 運行事業者：(株)長沼中央ハイヤー

運行ルート：幌内・西6線・千歳橋線
 運行期間：H23.4～H24.3
 運行回数：平日・土曜日4便、日曜日・祝日2便
 運賃：同上 運行事業者：同上

運行ルート：南長都線
 運行期間：H23.9～H23.11
 運行回数：平日・土曜日4便、日曜日・祝日2便
 運賃：同上 運行事業者：同上

(2) 車両購入

- トヨタ ハイエースバン
- ・ コミューター GL
- ・ 1台(定員15人)
- ・ H23.10.導入



(3) モビリティ・マネジメントの実施

- 住民説明会の開催(5回)
- ニュースレター、チラシの発行(4回)
- 町広報無線による周知(18回)
- 町HPによる周知(利用方法等の掲載)
- 住民アンケート調査の実施、分析



23年度事業の実施状況

(1) プロセス、創意工夫

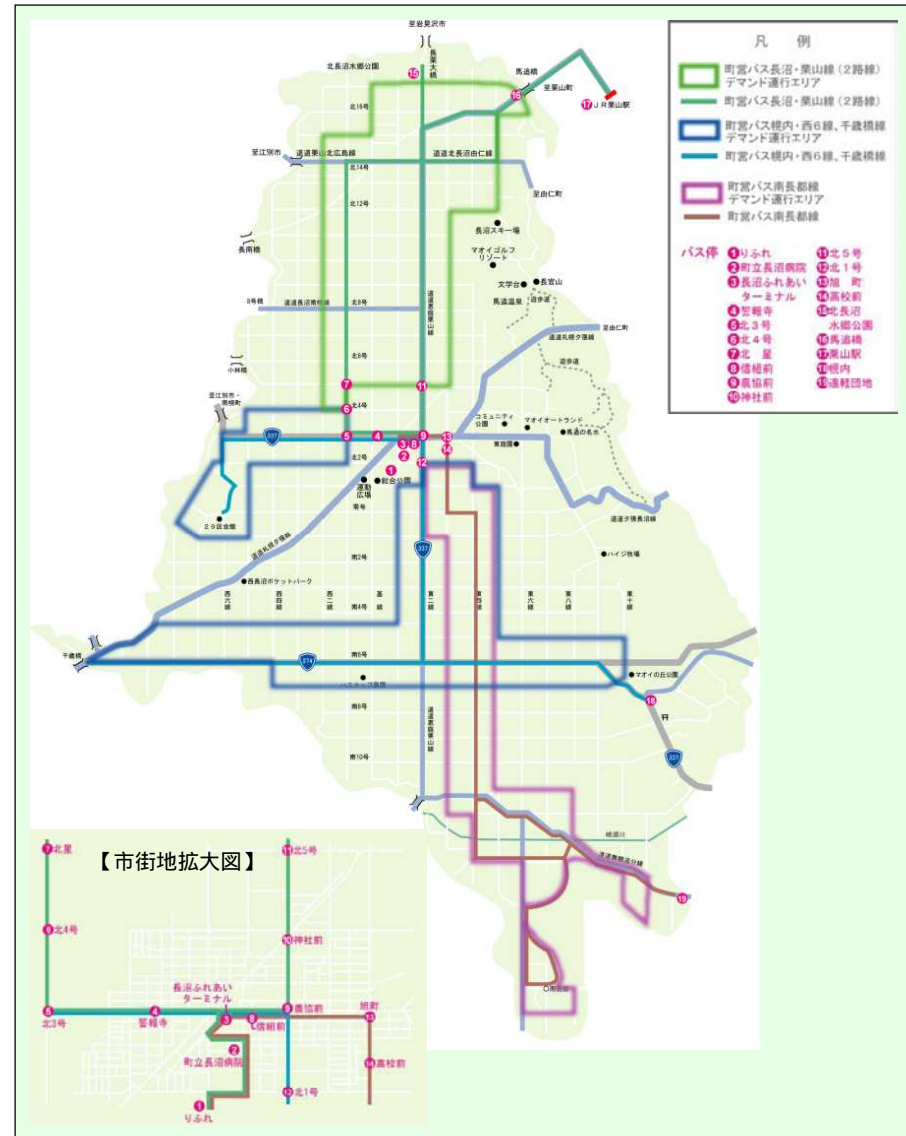
高齢化社会に対応した“地域の足”の確保、環境負荷軽減に寄与する交通体系の確立を目的にデマンドバスの実証運行を実施する。併せて、地域間幹線である民間バスとの結接を図り、他市町村へのアクセス性の高い交通体系を目指す。

平成23年度にあつては事業計画に基づき、新規地区（南長都線）の実証運行（3ヶ月）、継続地区（長沼・栗山線、幌内・西6線・千歳橋線）の運行期間の延長（通年）を実施し、交通空白地域の解消、ドア・ツー・ドアの実施等、利便性の向上を図った。

デマンド運行の実施により、エリア内を経由する複数の系統を再編し、小型の車両を導入、運行することでコストの低減を図り、併せて環境負荷軽減にも取り組んだ。

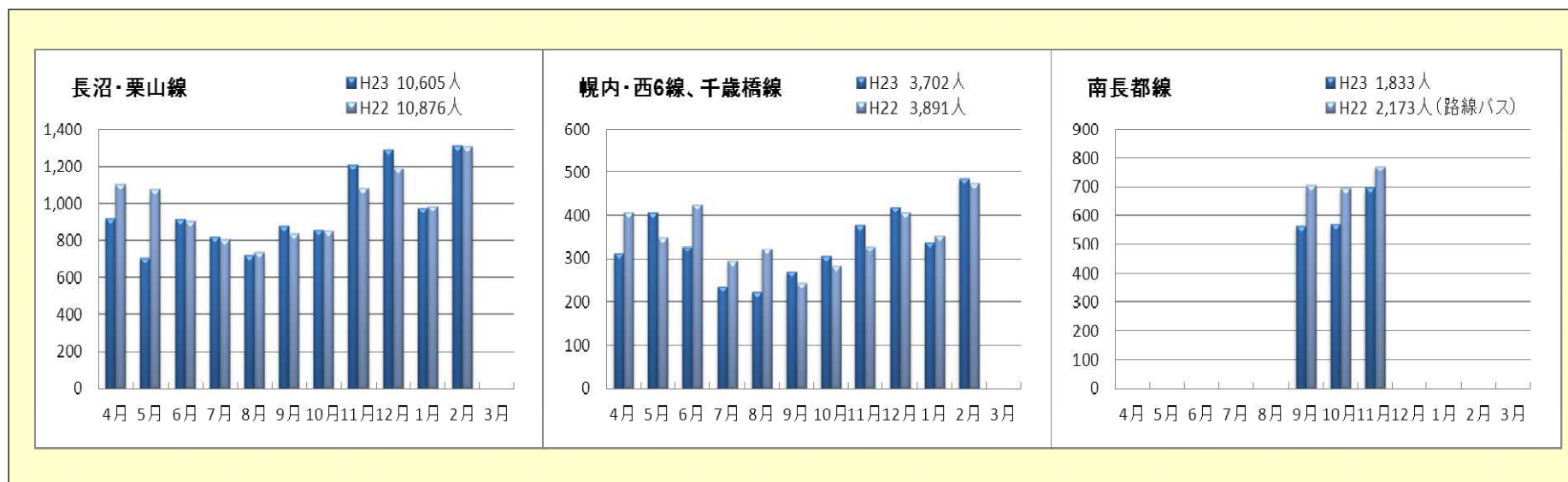
予約受付時間の延長、一括予約（利用日をまとめて予約）の活用により予約手続きの簡素化を図った。

(2) 運行ルート

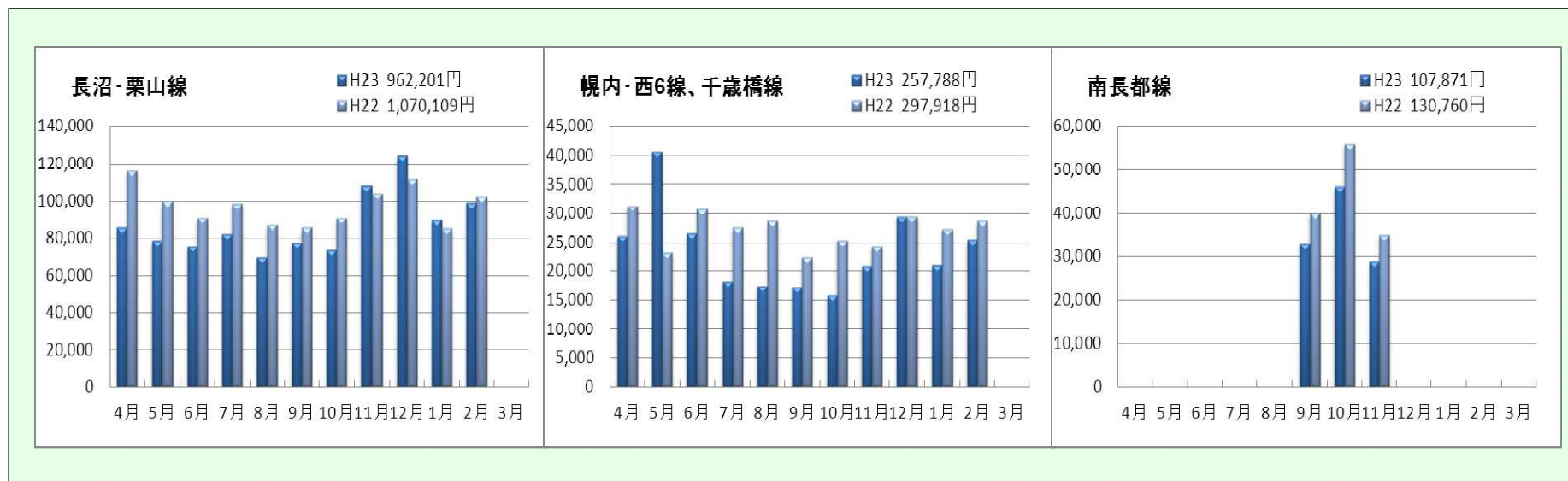


23年度事業の実施状況

(3) 利用実績



(4) 収入実績



23年度事業の実施状況

(5) 事業実施効果

デマンド運行の実施（運行エリアの拡大）による交通空白地域の解消
運行エリア内におけるドア・ツー・ドアの実施による利便性の向上
デマンド運行の導入に伴う既存システムの再編、車両の小型化による環境負荷軽減
モビリティ・マネジメントの実施によるデマンドバス認知度の向上（実証運行を知っている68.4%、“まち”にとってデマンドバスは必要70.2%）



(6) 今後の課題

利用者のニーズに合った運行形態・ダイヤの検討
地域の利用実態に合った運行形態の検討
停留所乗降エリア（市街地）における、きめ細かな運行の検討
合理的な運行による収支率の改善
利用しやすい予約手続きの検討

自己評価のポイント

- ・高齢者を中心とする交通弱者の足を確保、日中の時間帯における通院・買い物需要への対応、朝・夕における通勤・通学の足を確保するためにデマンド運行を実施した。
- ・地域の利用実態に合った運行形態の検討を要する。
- ・合理的な運行による収支率の改善等が課題である。

二次評価のポイント

- 自己評価のとおり。
- ・本格実施にあたり、引き続き地域のニーズを把握し、利用者定着を図るとともに、持続性を考慮した取り組みを期待する。
 - ・商工会・商店街との連携強化に向けた取り組みを検討されたい。